

子育て支援や少子化・人口減少対策として子どもが育つ街をめざして

2017.03.10

子育て支援を含め少子化や人口減少の問題について、勤労の不安定さや実質低賃金などに端を発して日常生活の営みに魅力やゆとりの欠如の進行により、子どもよりも大人の事情を優先する風潮が社会に蔓延しはじめ今日に至っているといえる。

解決に向けては、社会全体の取り組みもさることながら地域社会(家庭を含む)での日常の営みで改善を図ることとしたい。すなわち、子どもが育つ街づくりのために地域社会における親を含めた大人世代の意識改革を図りたいものである。

ここで具体的な話として晩婚化や未婚化をあげてみよう。今、若者にとって結婚が魅力的ではなくなり、子どもと共に将来生活を展望することもおぼつかないといっても過言ではない。確かに若い人たちには「お金がたまってから結婚」「結婚そのものが自由からの拘束」「男には結婚は節目」「女は結婚よりも仕事での生きがい」などの思いがある。どれをとっても、働き方、経済状況、社会通念などに問題がある。これについて対処は社会全体もさることながら、大人世代の意識改革をもって地域や家庭から取り組んでいきたいものである。以下に具体的に二点述べる。

まず人間関係の希薄化について：これは、どんな集団でも起こっていることであり、男女間においても当然進行している。お互いの理解はお互いの関係性の醸成が肝要であるものの、そのような雰囲気あまりない。確かに今は人を介さずとも買い物や時には仕事すら可能になろうとしている。コミュニケーションの充実と叫んでも、何のためのコミュニケーションかを明確にすることもない。まずはそうしたところからコミュニケーション円滑化のムード作りが必要といえよう。

次に人間尊重について：地域や郷土を愛想というスローガンでの運動は各地盛んである。にもかかわらずいつも観光の次元で問題が論じられており、人を愛して敬おうといった次元の話にはなかなか結び付かない。また自然教室でも、自然界で一番好きなものの中に人間が入っていないことが気にかかる。ここは常に人間主体のムードを作るべきかと思う。

以上のようにみえてくると、問題の解決に向けての環境改善には意識改革を含めて雰囲気づくりであり、当事者同士の努力はもちろんのこと地域社会の後押しが必要ということになろう。そのためには大人は日常生活を意識して充実させることしかないと考える。これをもって環境の基礎的雰囲気の醸成といたい。